

運んでほしいという心に精一杯の真心で応える 増田商会株式会社

代表取締役の増田社長のイラストがイメージキャラクターの増田商会株式会社。人懐っこい笑顔の社長はこの仕事を始める前の20歳～30歳の頃、日本全国を旅していたという。そのきっかけは友人のひと言だった。「おい、と論議って知ってるか？ すごくキレイな島らしいで」。増田社長は思い立ったら行動する性格。すぐに与論島へ向かっていった。そして、素晴らしい景色と旅先での出会いに感動し、旅行に夢中になったという。「今は少なくなったユースホステルや安い民宿での貧乏旅行でしたけど、楽しかったですね。北海道や沖縄などいろんな所へ行きました。一度出かけると約1ヵ月～2ヵ月くらい。この時の経験が誰とでもすぐに仲よくなる性格を作ったのかもしれない」。

友人の依頼で運送業を始める

増田社長が30歳を過ぎた1983年、友人から「会社の荷物を運んでくれないか」と相談されたことが転機になる。「よっしゃ。ええで」とあつ返事で引き受けた。これが増田商会の始まりだ。友人の会社は当時尼崎にあったコンピュータ関連の商社。ICチップやコネクタなどの電子機器を関西圏の得意先へ届けるのが仕事。「ほんとに小さな荷物で、数もそれほど多くなかったので、ひとりで始めるにはちょうどよかったです。ワンボックスカーでいろいろ回らせてもらいました」。配達の際に笑顔で届けていたことから得意先の人とすぐに打ち解け、評判は上々だった。

ある時、材木屋さんから「ユニック車もってきてくれへんか」と声が掛かる。建築現場の3階に木材を運ぶために必要だったとか。ユニック車とはクレーンを搭載したトラックの通称で、トラッククレーンの一種だ。しかし、その時はもってなかったから、急遽中古のユニック車を購入したという。普通はもっていないからと断るところではないだろうか。「せっかく声をかけてもらったのに、断るのは嫌だったので。ちょっときつかったんですけどね」。この機転が功を奏し、現在、ユニック車はさまざまな依頼が飛び込む。最近では家電が大型化し、テレビや冷蔵庫が玄関から入らない場合があるそうだ。電気屋さんの配送で対応できない場合に、ユニック車を使って2階のベランダから搬入してほしいという依頼が増えている。また、後ろの扉部分が水平に上下するパワーゲート車も導入し、キャスターが付いている重たい荷物の積み下ろしも可能になった。古いビルの地下駐車場は2.2m以下の高さ制限があるが、同社のトラックは2.07mと高さ制限をクリア。地下駐車場の搬入にも対応できるので喜ばれている。



高所作業車のレンタルカーを借りた際に、オペレーターがいない時に頼りになる



玄関から入らない大型テレビをベランダからユニック車で搬入



パワーゲート車の車高は2.2mが多いが、同社は2.07mと少し低めで高さ制限をクリア

異業種交流会で新たなネットワークが広がる

社交的な性格の増田社長はいろんな所に出合いのきっかけがある。ある時近所の仲のよい不動産屋さんで、顔見知りになった文具屋さんの専務から「今度異業種交流会で発表するんやけど、増田さんちょっと聞きに来てくれへん？」と頼まれ、初めて異業種交流会に参加する。ここでもネットワークが広がり、ベアリング会社の社長から「増田さん、何とか運んでもらえないかな」と相談が舞い込む。浜松にある工場のベルトコンベアに使われるベアリングを最寄り駅まで届けるというもの。現地の工場の人々が改札まで取りに来てくれるという。「得意先の工場の生産ラインが止まるのは一大事。でも、ベアリング会社の社員がもっていくと、今後も当たり前になってしまうのは避けたいということで、私に相談が来たんです。ある時は工場まで届けたこともありました。ハンドキャリアサービスを始めたのはこれがきっかけでした」。

ほかに、高所作業車の依頼があれば、高所作業車をレンタルし、資格を持つオペレーターを手配する。建築関連の会社が外壁の塗装や点検等に



高速料金所の階段でフェリーの運搬を行った



彫刻が施された珍しい石をマシンの運搬を行った



使うことが多いが、時々東京のテレビ局や広告制作会社が収録や撮影に使うなど、思いも寄らぬ依頼が飛び込むこともある。

日本全国どこへでも送りたい荷物と運びたい車をマッチング

荷物の配達に関西以外の地方の場合や、社長や同社の社員が動けない場合も出てくる。そんな時は運送業の会員サイトを通じて、同業のネットワークを利用。それもお客様の気持ちに応えたいという気持ちからだ。さらに、依頼する運送会社への配慮も怠らない。「運送会社さんを探す前に、お客様に時間や運賃をご相談しておきます。あと、ほとんどの運送会社の配達には玄関までが基本なんです。昔は家の中まで荷物の搬入をしていた会社もありましたが、絨毯を汚したとか、何かを破損したとかがあると送料が1～2万円くらいでも、弁償に何万円もかかったら元も子もないでしょ。だから運送会社は家の中まで運ぶことは避けたがるんです。それにトラック1台で1人の場合だと、駐車したまま時間の掛かる搬入はできません。それを私からお客様にしっかりご説明して、地方の運送会社さんが運びやすいようにしてからお願いしています。この会員サイトを利用するようになってから、全国への配送にも躊躇せずお受けすることができるようになりました」。

ホームページから個人や国際的なニーズもキャッチ

運送業界はまだアナログという増田社長。しかし、10年前からホームページを立ち上げ、現在はリニューアルを重ねて3代目。SEO対策も力を入れている。「異業種交流会で知り合ったIT系の会社の方のアドバイスのおかげです。ありがたいことに最近はホームページを見てというお客様も増えてきています。ホームページからリース期間が終了した医療機器やコピー機などを回収して運搬する仕事の依頼があり、全国のネットワークを活用しているという。また、個人からの問い合わせも増えている。お客様アンケートには「初めて電話したのに快く対応してもらった」「リーズナブルな価格と丁寧なところがよかった」「社長が親切に対応してくれた」など、喜びの声が数多く届いている。

また、日本でビジネスをされている中国の方からの依頼が少しずつあったこともあり、3年前から事務担当に中国の方を採用した。「一般事務の募集にたまたま中国の方が応募してくれたんです。ご主人は日本の方で近所に住まれている方です。まだ言葉がたどたどしい部分もあったのですが、なんとかなるかなと思って採用しました。ものすごくパワフルで、熱心に対応してくれるので、事務担当の中では売り上げも一番なんです。中国の方からの電話では流暢に対応してくれるので助かっています。今後はベトナムの方の採用も準備中だ。さまざまなつながりを通じて仕事を広げていきたいと意欲的に活動している」。

少しずつできることからボランティアに参加

増田商会は創業当初からあしなが育英会に始まり現在はユニセフやアムネスティ・インターナショナルなどの支援やボランティア活動をしている。フォスター・プラン（現プラン・スポンサーシップ）といって途上国のひとり子どもに継続的に寄付をする支援では、その子が18歳になる期間満了までの10年間続けていたとか。支援やボランティアを始めたきっかけを聞いてみた。「小学5・6年生の担任の先生の影響が大きかったと思います。すごく優しい先生で、みんなで仲よくという気持ちを教えてもらったと思います。もう先生は亡くなりましたけど、毎年同窓会をしているんですよ。自分のためだけではなく、少しでも誰かのためになればと思って。できる範囲でこれからも続けていければと思っています」。今後も優しい笑顔で、ただモノを運ぶだけの運送業ではなく、関わるすべての人を笑顔にする真心も届ける。

増田商会株式会社

代表取締役 増田 庸一

〒546-0024
大阪府大阪市東住吉区公園南矢田2-3-4
TEL : 06-6609-6377
FAX : 06-6609-6378
http://www.transmasuda.com

【事業概要】一般貨物自動車運送事業、一般貨物取扱業（配達サービス、配達代行サービス、ユニック車、高所作業車、パワーゲート車、全国混載便・全国帰り便・全国JRコンテナ便、設備設置・移設、引越しサービスなど）

